

生化学

検査説明に生かせる検査データの読み方 ～基礎編～

◎畑中 徳子¹⁾学校法人 天理よろづ相談所学園 天理医療大学¹⁾

平成 26 年度から日本臨床衛生検査技師会による「検査説明・相談ができる臨床検査技師育成講習会」が進められている。現在、医療現場で検査データの読める臨床検査技師が求められていることを意味しているのであろうが、なかなか一歩が踏み出せないでいる人も多いと想像する。

本セミナーでは、検査データを読む際の 3 つのコツを押さえながら解説したいと思う。コツ 1：検査値は濃度である。血管への水の出入りで変化する。コツ 2：単項目ではなく関連する項目を塊でみる。塊で説明のつく機能障害あるいは細胞傷害の臓器を探す。コツ 3：「検査値が異常値を示した」、これはすなわち体内のいずれかのバランスが崩れたことを意味する。生成と分解、吸収と排泄、あるいはホルモンと受容体など、バランスがどちらに傾いているのかを考えて、病態を推定していく。

当日は次に示す症例を用いて、検査データから“患者の病態を読む”を意識して、一緒に考えたい。

【症例】

40 歳代 女性。

頭痛、感冒様症状と尿の着色を主訴に来院した。

【課題】

1. 検査値より病態を解析する。
2. 解析した病態から、診断のために次に行いたい検査にはどのようなものがあるか考える。

【受診時の検査結果】

項目	基準範囲	受診時
尿検査		
比重	1.006-1.025	1.021
色調	麦わら色	赤褐色
混濁	無	無
pH	5.0-7.5	6.0
蛋白	(-)	(-)
糖	(-)	(-)
ケトン体	(-)	(-)
潜血	(-)	(3+)
尿沈渣		
赤血球	0-1	1-4
白血球	0-1	1-4
円柱		認めず

項目	基準範囲	受診時
RBC	$3.7-5.0 \times 10^6 / \mu\text{L}$	2.72
Hb	11.5-14.5g/dL	9.1
Ht	36-45%	26.2
Plt	$15-35 \times 10^4 / \mu\text{L}$	13.4
WBC	$3.5-8.0 \times 10^3 / \mu\text{L}$	2.03
網赤血球	0.7-1.9%	5.6
網赤血球産生指数	2-3	1.6
リンパ球	20-40%	24
単球	1-7%	5.0
好酸球	1-3%	1.0
好塩基球	0-1%	0.0
好中球 (Seg)	45-70%	62.0
好中球 (Band)	1-3%	8.0
PT	秒 (コントロール12.6秒)	11.5
APTT	秒 (コントロール31.3秒)	26.9
フィブリノーゲン	170-370mg/dL	271
D-ダイマー	1.0 $\mu\text{g/mL}$ 以下	0.5
FDP	5.0 $\mu\text{g/mL}$ 以下	<2.5
CRP	0.2mg/dL 以下	0.8
UN	7-19mg/dL	9.7
Cre	0.5-0.9mg/dL	0.6
Glu	65-110mg/dL	102
TP	6.7-8.1g/dL	7.1
Alb	4.0-5.0g/dL	4.5
T-Chol	110-220mg/dL	173
LD	100-225 U/L	1110
AST	11-32 U/L	80
ALT	3-30 U/L	22
γ GT	6-30U/L	9
ALP	100-335 U/L	161
T-bil	0.2-1.0mg/dL	3.5
D-bil	%	47
CK	20-180U/L	134
Amy	40-130 IU/L	55
Na	139-147mmol/L	138
K	3.5-4.8mmol/L	3.7
Cl	101-111mmol/L	102
補正Ca	8.4-10.0mg/dL	8.7
P	2.2-4.2mg/dL	3.6

連絡先：0743-63-7811